

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 5月 18日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	鳥井 朋恵

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本、宮崎県串間市
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
幸島実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
令和元年5月7日 ~ 令和元年5月13日 (7日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター幸島観察所 准教授 杉浦 秀樹氏
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
<p>今回の渡航では、幸島実習を行い、都井岬における岬馬の観察と、幸島に生息するニホンザルの行動観察を行った。</p> <p>私は幸島で、高順位の雌のニホンザルにおいて、年齢差と攻撃行動の頻度の関連性を検討することを目的として観察・研究を行った。高齢個体と若齢個体で、攻撃する頻度は加齢ともに減少し、攻撃を受ける頻度はわずかに上昇した。観察時間が短いためこれが正しい傾向であるとは限らないが、先行研究での中・低順位の傾向とはやや異なる傾向がみられた。ほかの霊長類と比較してそれぞれの霊長類の行動や生態を比較することも面白いのではないかと感じた。</p> <p>また、今回は大学院に入学して初めての实習であり、GPS や各種機材の使い方、テント生活の方法などフィールドワークの基本を身に着けることができた。</p> <p>今後は、屋久島実習においてフィールドワークの経験を積み、自分のフィールドワークでの調査に役立てていきたい。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



観察対象の若齢雌個体のツワ（8歳）



都井岬



幸島実習で寝泊まりしたテント

6. その他（特記事項など）